

Yamaichi Magazine

Vol,20



生成AI活用に向けて

～ 目 次 ～

はじめに

1、生成AIとは

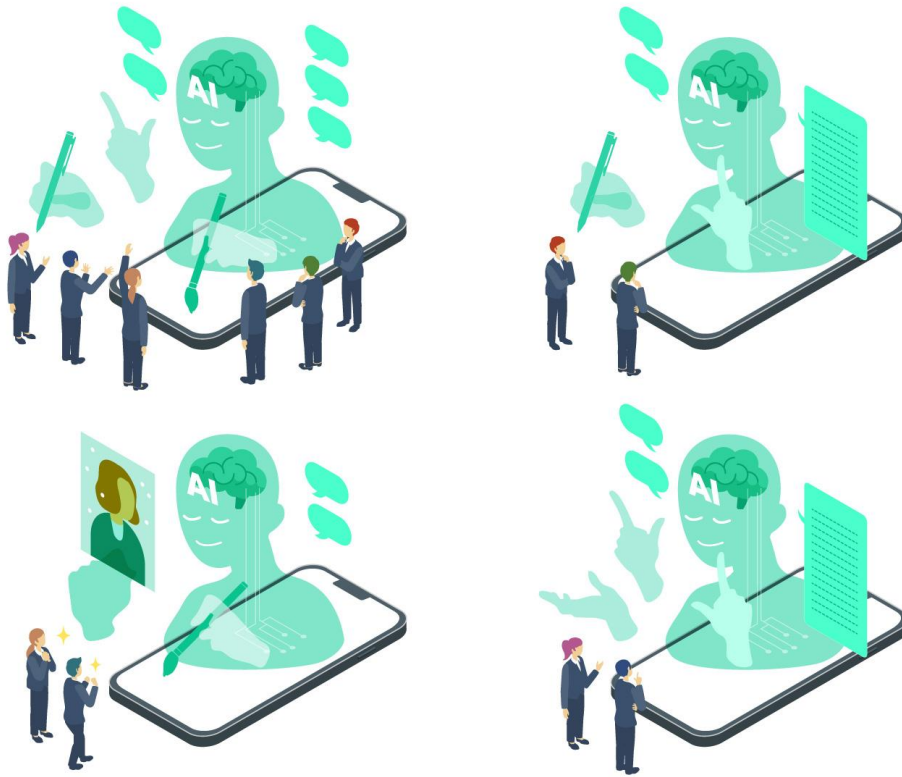
2、生成AIのメリット・デメリット

3、ビジネス活用例

4、生成AI活用にあたって注意すべきこと

5、中小企業における生成AI活用

6、Microsoft copilot



はじめに

生成AI活用に向けて

2022年11月 ChatGPTが発表されて以降、日本においても生成AIに対する関心が急速に高まっています。専門家だけでなく、一般の人にも使えるツールとして、企業の情報と連携して業務の自動化・効率化を促進できるツールとして多くの企業の関心が集まっており、既に一部の企業では実際の活用も始まっています。

しかし、多くの企業では、AIに対する理解不足、人材不足、ノウハウの欠如という課題の中、生成AI導入に慎重になっている企業も多いのではないのでしょうか？

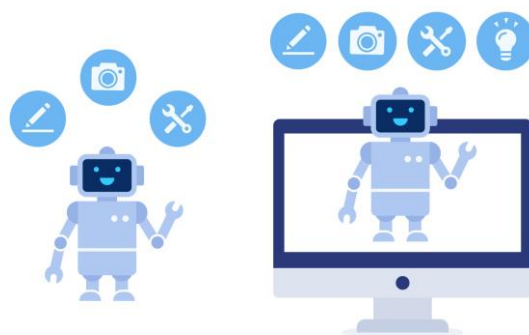
今回のYamaichi Magazine では、生成AIについてご紹介してまいります。

生成AI活用へ向けて考えていただく切っ掛けとなれば幸いです。

1. 生成AIとは

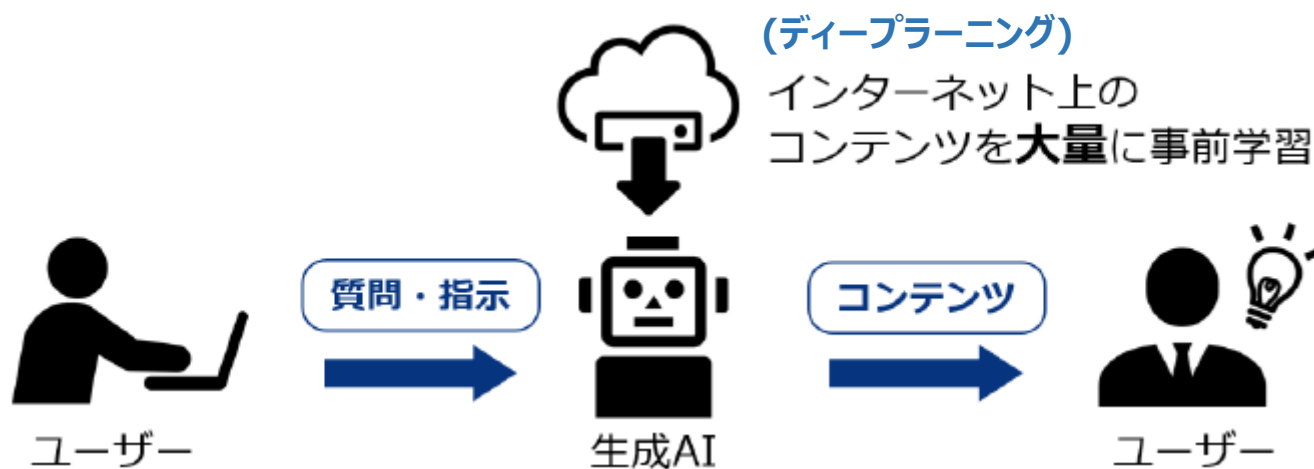
生成AIとは、「Generative AI:ジェネレーティブAI」とも呼ばれ、さまざまなコンテンツを新たに生成できるAIのことです。従来のAIが決められた行為の自動化が目的であるのに対し、生成AIはデータのパターンや関係を学習し、新しいコンテンツ(テキスト・画像・動画・音声…等)を生成することを目的としています。

また、生成AIは、専門知識のない一般の人でも比較的容易に利用できる点が従来のAIとの大きな違いとなっています。



◇ 生成AIの仕組み

生成AIが新しいコンテンツを生成するのには、大量のデータを学習することが必要です。「ディープラーニング」といわれる手法でAIが自ら学習したデータをもとにAI自身が新たなコンテンツを生成できるようになります。



◇ 生成AIの代表的なサービス例

生成AIの代表的なサービスをまとめました。
一般ユーザーでも利用可能です。（一部有料サービスあり）
※この他にも多くのサービスが発表されています。

テキスト(文章)生成

「プロンプト」と呼ばれる文章を送信すると、自動的にテキストを生成

- ChatGPT (OpenAI社)
- Gemini (Google社)
- Microsoft Copilot (Microsoft社:画像生成対応)

画像生成

テキストで指示すると、イメージに近いオリジナル画像を生成

- Stable Diffusion (Stability AI社)
- Midjourney (Midjourney社)
- Adobe Firefly (Adobe社)

音楽生成

音声入力やテキスト入力によって新たな音声を生成

- MusicLM (Google社)

動画生成

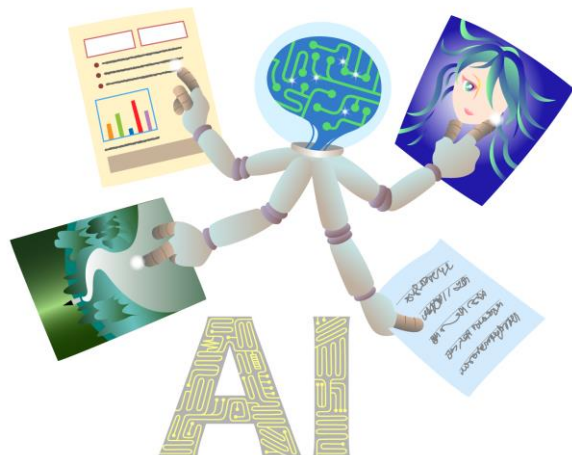
テキストで指示したイメージに近い動画を生成

- Sora (Open AI社)

チャットボット

チャットでの質問に自動で返答を生成

- PKSHA Chatbot (PKSHA Technology社)



2. 生成AI のメリット・デメリット

◇ 生成AIを企業で活用するメリット

多くのビジネス現場で活用が始まっている生成AI、次のようなメリットがあると言われています。

- 作業の大幅な効率化・品質UP
- アイデア創出につながる
- 顧客満足度の向上

文章や画像などのコンテンツ制作作業を、生成AIで自動化できるため、大幅な作業時間の短縮、生産性の向上に貢献できます。

アイデア出しの場面でも、AIが学習した大量のデータを基に、優れたアイデアの発想につながる回答を導き出します。

また、顧客の嗜好・行動履歴などを分析し、パーソナライズされたコンテンツやサービスを提示する事で、顧客満足度の向上が期待できます。

◇ 生成AIを企業で活用するデメリット

ビジネス現場における生成AIの活用にはデメリットもあります。

- 著作権や商標権を侵害するリスクがある
- ハルシネーション(もっともらしいうそ)が発生する
- 情報漏洩リスクが高まる
- 適切な指示を与えるのが難しい

これらのデメリットは、生成AI活用時の注意すべきポイントです。導入前にそれぞれの要素を検証し、現状の環境やリソースで対応可能か否かを見極める事が必要です。

3. ビジネス活用例

実際のビジネスシーンでの生成AIの活用例(一例)をご紹介します。生成AIは効率的でクリエイティブな仕事の進め方を実現します。

1. 社内FAQ・顧客照会応答の自動化

社内マニュアルや商品説明書、過去のFAQ履歴などの情報をデータベース化し、生成AIに読み込ませることで、生成AIが自動で最適な回答を返すことができます。社員は、より専門的な業務に集中できるようになり、お客さまの満足度向上にも寄与します。業務効率化と顧客サービスの質の両方を高める有効な手段となります。

2. 会議・商談のテキスト化と要約

会議や商談の録音データを生成AIに与えることで、文字起こしを自動化でき、膨大な時間と手間を省くことができます。

さらには、会議内容の要約や分析を行なうこともできます。会議内容から次のアクションプランを提案してもらうことも可能となります。

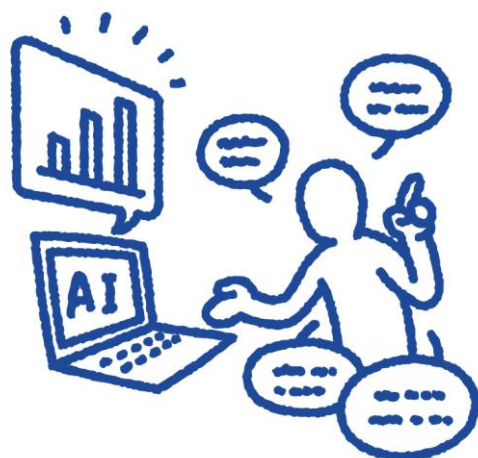
3. 企画書・契約書などのビジネス文書の作成

提案書、契約書、稟議書などの作成において、生成AIにテーマや課題を与えるだけで、必要な要素を抽出し、自動で草案を作成することができます。

生成AIを活用すれば、ビジネス文書の作成プロセスにおけるスピードアップと品質向上を実現でき、企業の生産性向上に貢献します。

4. プログラミングにおける活用

生成AIの進化により、プログラミング言語に不慣れな方でも、簡単に自分のアイデアをプログラムで実現できるようになります。「これを実現したい」と指示すれば、適切なコードを返してくれます。生成AIは、プログラミング作業のハードルを下げ、開発プロセス全体の高度化を実現します。



4. 生成AI活用にあたって注意すべきこと

生成AIサービスは上手く活用すれば非常に有効ですが、生成AIの限界や注意しなければいけない点を十分に理解する必要があります。

※参考(一社) 日本ディープラーニング協会「生成 AI の利用ガイドライン」第1版

情報の正確性に注意

生成AIにはハルシネーション(幻覚)という弱点があり、架空・虚偽の情報をあたかも実在のものとして回答することがあります。生成されたコンテンツは、確実な情報源を基に必ずファクトチェックを行いましょう。

個人情報・機密情報漏洩に注意

生成AIを利用する際は、AIに入力するデータの取り扱いに十分留意する必要があります。サービス提供社に利用されたり、他のユーザーへの回答(出力)に使われるリスクがあるからです。個人を特定できる情報や企業の機密情報などを含む入力は避けましょう。

生成物の権利侵害に注意

生成AIからの生成物が既存の著作物と同一・類似している場合、当該生成物を利用することで権利侵害となる可能性があります。

ガイドライン策定

生成AI導入・活用におけるリスク回避においては、社内でのルール策定が有効な対策となります。日本ディープラーニング協会が公開している、企業や組織における生成AI活用で留意すべき点をまとめた「生成AIの利用ガイドライン」を参考に最適な社内ルールを作成できます。



5. 中小企業における生成AI活用

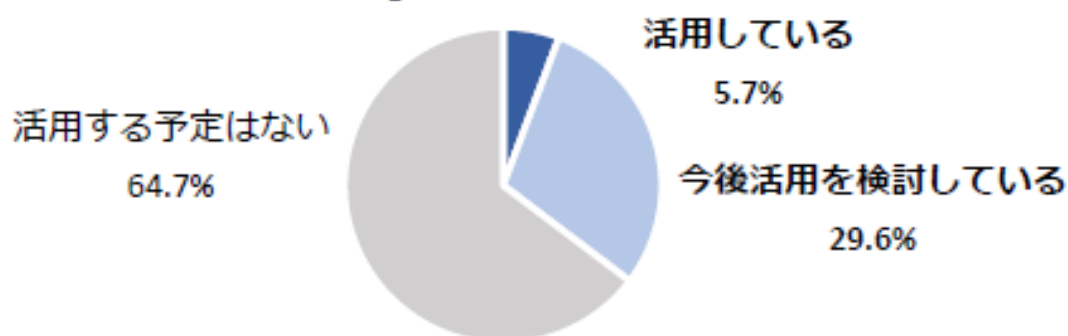
中小企業の経営・業務への影響

現状の生成AI サービスは、経営者層であれば、事業等のアイデア出しや情報収集など経営判断の支援ツールとして、従業員では、業務効率化や営業強化のツールとして有効活用 すれば、経営課題解決に役立つ有力なツールとなります。また、今後もAI技術の発達と生成 AI の導入・活用が進めば、企業経営の在り方 や事業・雇用 環境の変化も大きなものになると考えられています。

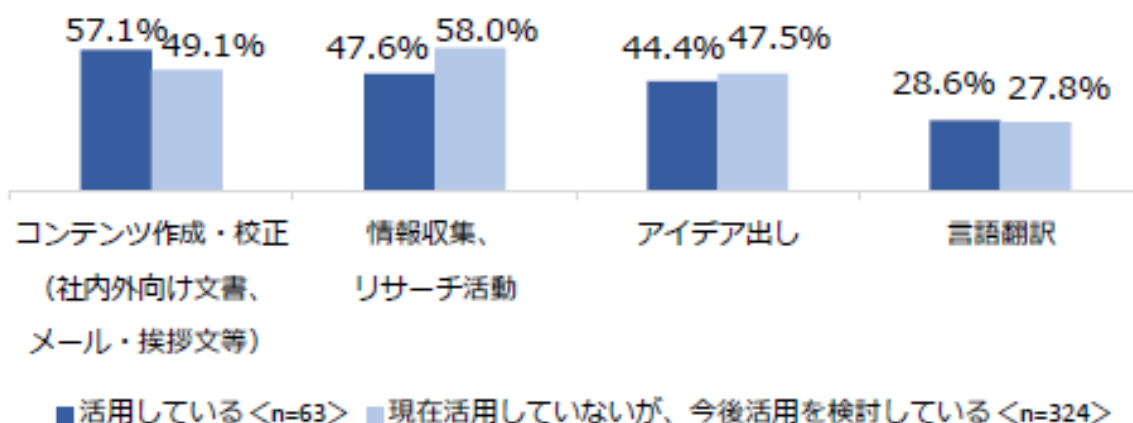
中小企業の活用状況

東京商工会議所が2023年5月に実施した会員中小企業への調査では生成AIの活用状況について、「活用している」と回答した企業の割合が5.7%、「現在活用していないが、今後活用を検討している」は29.6%となりました。生成AIを「活用している」と回答した企業では、「コンテンツ作成・校正(社内外向け文書、メール・挨拶文等)」に活用している企業が最も多く57.1%となりました。

【生成AIの活用状況】(n=1,096)



【活用もしくは活用を検討している業務】(複数回答・上位4項目)



中小企業の活用事例

①製造業(理化学機器)、従業員10人

■ 用途

- ・ 課題解決や付加価値、新規開拓などの情報収集・アイデア出しに活用。新規市場の例や市場規模、特定の企業の事業内容など自分では思いつかないような提案がなされる。単純なウェブ検索と違い、対話できるところが便利。
- ・ 仕入先・発注先発掘に活用。「寸法、素材などの条件に合う仕入先を探して」と聞いたら、条件に近い実在の企業名が表示された。
- ・ 誤った情報が表示されることはあるため回答を鵜呑みにせず、ヒント・糸口と割り切って活用すべき。

■ 課題

質問を掘り下げていくと、一定の深度で回答が止まってしまう。より深い議論・詳細の情報が出てくるようになると良い。

②製造業(プラスチック)、従業員22人

■ 用途

- ・ 2023年4月頃から、あいさつ文・お礼状の作成、類語の検索、英文の翻訳、ビジネス・事業アイデアの考案等で活用している。製品設計のための計算にも使用したことがある。
- ・ セキュリティの問題や回答に誤りが含まれている可能性もあるため、回答を鵜呑みにしないことを前提に、アドバイザーとして使っている。

■ 課題

これからの時代、検索力ではなく、質問力が問われる。より具体的に質問・指示をすることが重要であり、それによって回答の質も変わる。

③卸売業(スポーツ衣料)、従業員7人

■ 用途

- ・ 2022年11月頃から会社全体で活用をスタート。WEB広告配信サービスのキーワード文の作成や、米国市場向けのSNS運用においてたたき台となる英文を作成し、ChatGPTにSNSにふさわしいカジュアルな文章に変換してもらったり、経営計画書の作成にあたってアイデア出し・抜け漏れのチェックに活用している。今後は、Stable Diffusion(画像生成AI)を使って、衣料品のデザインのアイデア具現化にも使っていきたい。

■ 効果

ウェブ広告の業務では、今まで外注や社員に頼んで時間を掛けて行っていたものが、数十分という短時間で実施できるようになり、費用節減・生産性向上につながった。

6. Microsoft copilot

Copilot for Microsoft 365は、「ChatGPT」をベースにOfficeアプリケーション(Word、Excel、PowerPoint、Teams、Outlookなど)にアドオンすることで様々な業務をより効率的に行う事ができるMicrosoftの生成AIです。文章や資料、データ作成を自動化でき、作業効率を上げることが可能です。

Copilot for Microsoft 365で日々のお困りごとを解決！

- Teams : 会議内容を自動要約・議事録の自動生成
- Outlook : メールを自動要約・メール下書きの自動作成
- Word : 文章の自動生成・自動要約・翻訳
- Excel : 表やデータを自動分析・グラフ化
- PowerPoint: プレゼン資料を自動生成・画像生成



Copilot for Microsoft 365 ユーザーの70% が、生産性が向上したと答えています。



Copilot for Microsoft 365 ユーザーの68% が、仕事の質が向上したと答えています。



Copilot for Microsoft 365 ユーザーの77% が、一度使い始めたら手放せなくなったと答えています。

Microsoft ホームページより

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/business/copilot-for-microsoft-365>

Microsoft 365 Copilot 活用の注意点

- ① 個人情報・機密情報には適切なセキュリティ設定が必要
- ② 専門的な質問や複雑なタスクには対応できない場合がある
- ③ 生成コンテンツを業務に活用する場合はダブルチェック

Copilot for Microsoft 365 P1Y A (年契約年払) ￥53,964/年

注意)本サービスはアドオンですので単体での購入は不可となります。購入に際しては親ライセンス(Microsoft 365 Business Basic/Standard/Premium、Office 365 F3/E1/E3/E5、Microsoft 365 F1/F3/E3/E5など)が必要となります。

まずは、**Copilot for Microsoft 365** から生成AIを体験しましょう

Yamaichi magazine Vol,20

生成AIの活用に向けて

発行日	2024年7月19日
発行者	株式会社ヤマイチテクノ
HP	 ← 株式会社ヤマイチテクノ公式HP  ← yamaichi magazine バックナンバー

※無断転載、複製はご遠慮ください。

【参考資料】

東京商工会議所：中小企業のための「生成AI」活用入門ガイド
東京商工会議所：東商けいきょう 2023年4～6月期集計結果
(一社) 日本ディープラーニング協会：「生成AIの利用ガイドライン」第1版